

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1093100012		
法人名	社会福祉法人 もくせい会		
事業所名	めいわCOMハウスグループホーム		
所在地	群馬県邑楽郡明和町大輪1768		
自己評価作成日	令和4年8月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	令和4年 9月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所のケアの理念に挙げているように、利用者の意思を尊重し、出来る限りご本人様の意思に沿った援助を行えるように努力しています。またご利用者様、職員が明るく・楽しく生活が送れるように支援し家事や日常生活での動作や体操等を行う機会を設け、今の状態を少しでも長く維持できるように援助を行っていきます。
また、ご家族様、ご本人の意向により、見取り介護を実施しており、最後の時まで、その人らしい生活が送れるように援助していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新棟増設で2ユニットになり、新しい7名の職員を迎えスタートを切った。3名のインドネシアからの職員に対しては外国人向けのマニュアルを用意して迎え、夜勤、入浴介助、記録等も支障なく業務に就いている。また、それぞれ経験を積んできた他の新しい職員も加え、活性化された職場でチーム力を挙げて支援に取り組む意気込みが伝わってきた。現在、コロナ禍で制限のある生活ではあるが、希望があれば外出し、好きなそば打ちもできる、新旧利用者にとってグループホームが自宅同然の住まいとなるよう努力を続けている事業所、職員の姿勢がうかがえた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の変更はおこなっておらず、毎朝理念を見るように義務付けて業務に入るようにしている。 その理念に基づいて援助するように努力している。	職員間で齟齬が生じた時に、修正する為の目標となる新しい理念を掲示する予定になっている。管理者は日々の職員の行動、利用者への接し方から理解度を把握している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃等に参加しているが、新型コロナウイルス感染防止の観点により、地域の方との交流は持てていない。	コロナ禍にあり地域との交流やボランティアの慰問もないが、管理者が地区の清掃に参加したり、区長が広報を届けに来た際に、地域の情報を聞いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所として、地域の方々に認知症についての研修会等を実施する機会は作られておらず、活かされていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況やサービス内容については、運営推進会議にて報告をしているが、新型コロナウイルス感染防止の観点の為、書面審議が多くなり助言やサービス向上にはつながっていない。	今年は1回のみ開催となっているが、利用者の状況や行事の報告等をまとめた議事録を区長、民生委員、役場に送付している。	運営推進会議は家族が主役なので、家族にも議事録を渡し、利用者やホーム内のことが家族にもわかるような取り組みをしてはいかがか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要書類や相談がある際には、必ず保険者へ訪問を行い、状況等について報告を行うなど、関係が保てるように努力している。	管理者が介護保険の申請代行や認定調査の立会いをしている。また、新棟の開設(昨年10月)について行政に相談や報告を通して連携を図り、協力関係を築いてきた経緯がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、年2回の勉強会を実施し、職員への周知は徹底しているが、玄関の常時解錠には至ってない。日々の状況によってデイサービス側の解錠は行っている。	旧棟は開錠しているが、新棟の玄関は暗証番号で開閉ができ危険性がある為、家族に説明をしている。3ヶ月ごとに身体拘束適正化委員会、年2回身体拘束と虐待について勉強会を開いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議、勉強会を行いながら、職員に対して虐待等について説明している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	虐待と一緒に権利擁護について勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を行う際には、契約書の内容について説明を行い、説明が終わった後は、不明な点などについて伺っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱と用紙を設置しているが、それを使用してのご意見はいただいたことはない。また家族にアンケートはしていないが、面会の際や電話での際に尋ねる対応をしている。	家族がそば打ちの道具を用意し、そばを打って皆に振舞ったり、遠く離れた妹に会いに行く等、利用者の希望を叶える支援をしている。家族からは何かあれば連絡がくるといった関係性を築いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、並びに会議等において職員から意見が言えるように機会を作っている。	2ヶ月ごとの職員会議や日常的な申し合わせの際職員から意見や要望、提案があり、いろいろな方法を模索しながら、利用者にとって良いケア、働きやすい環境作りに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得等によって、非常勤が常勤に上がれるように、モチベーションを持てるような環境の設備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス感染防止の観点の為、外部への研修に参加させられなかった。グループホーム内の研修のみだった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は近隣の施設との関係は作られているが、職員は法人内でしか交流を持っておらず、新型コロナウイルス感染防止の観点の為、交流がまったく持っていない。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず本人、家族と面談を行い、要望等について確認を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には、必ず面談を行い要望等について確認を取っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前の段階で相談や面会時において、グループホームへの入所以外のサービスが適切と考えられる時には、他のサービスの検討についての助言、説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、一緒に行える事を作り出し、共に生活が出来るように環境を作っているが、出来ている利用者に偏っているののでしっかりとした対応はできていない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院や外出の援助など、職員がすべて行わずに、可能な範囲で家族をお願いをし、本人と家族が係れるように援助している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅等への外出は援助しているが、新型コロナウイルス感染防止の観点の為、会うことが出来なくなっており、面会も玄関で5分程度で対応している。	個性的な利用者が多く、趣味のそば打ちやぬり絵をしていたが、好んで行っていたことが年齢的に難しくなり、草むしり等できることを日常的に継続する支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員で利用者同士の相性を検討・把握し、出来る限り一緒にに会話が出来るように		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された利用者や家族に必要に応じて面会や面談を行い、支援が出来るように務めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中や行動を観察し、要望や意向を聞き取りながら把握できるように努めている。しかし、本人の奥にある意向をくみ取れているちは言い難い。	入居時やアセスメントの際、利用者、家族から話を聞き、「家に帰りたい」「家族に会いたい」といった利用者の心情をくみ取りながら、思いや意向の把握に努め、介護計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用台帳を作成し、本人から聞き取りや家族に生活歴を確認したり、以前の暮らし方について把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者台帳などにおいて、個別の能力を記しており、定期的に見直すことで現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の家族と話し合いながらケアプランの原案を作成し担当者会議を用いて職員と話し合っている。	毎月モニタリングをし、3ヶ月ごとに介護計画の見直しをしている。見直しの際、担当者会議を開き、職員とも話し合った上で、現状に合った計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の状況を記し、また必要に応じて、申し送りノートを活用して職員同士での情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複合型の施設である事を生かし、他部署の協力を得ながら、その時々ニーズに対応できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状において、利用者が地域資源を活用しながら生活が送れるような環境の設備や支援は行っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時には、必ずかかりつけ医について相談を行い、希望する医療機関への受診を行っている。また管理者が通院援助を行うことで、かかりつけ医との関係を作り、相談が出来る環境作りに努めている。	入居時にかかりつけ医の選択をしている。現在は18名全員が3名の協力医による月2回の往診を受け、病状の重要度に応じて家族の付添いで受診している。歯科は必要に応じて往診を依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何かあった際には、施設内の看護師、グループホーム内の看護師に連絡・相談を行い適切な対処が行えるように努めている。		
32		利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必ず管理者が付き添い、医療機関への情報提供を行っている。またコロナ禍の為、電話で担当者と話を行いながら、退院に向けての相談や調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応が必要な場合には、早期にかぞくやかかりつけ医と相談を行い、その方向性で話し合いを行っている。またその方向性については会議や申し送りノートを用いて職員に周知を図り、皆が共有出来るように努めている。	「終末期の医療についての事前調査書」があり、利用者、家族には法人の方針に沿って段階的に説明し、協力医に相談しながら判断を仰ぎ、看取り支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修等には参加できなかったが、定期的に勉強会が出来るように環境を作るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回実施している避難訓練は実施している。	日中、夜間を想定した総合避難訓練を実施している。利根川の水害地域にあり、緊急時の避難場所や経路の確保を念頭に災害対策をしている。2週間分の水、食糧、排泄用品等を備蓄している。	新棟の造設に伴い利用者も増えているので、緊急時に備え、毎月自主訓練の実施や屋上への垂直避難訓練等に取り組んでみてはいかがか。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声のかけ方には配慮しているが、職員が忙しくなってしまうと、少し大きな声になってしまふ等の配慮が欠ける場面がみられるので十分な対応は出来ていない。	異性介助については、日頃から利用者と信頼関係を築くことを心がけている。また、利用者同士の相性にも気を配り、座席を変える等工夫をしている。居室も新、旧棟を希望に沿って入替えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人より希望があった場合には随時対応するように心がけているが、日常的に対応するとは言い難い。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人から「したい。」事を優先して対応を行っているが、それができる利用者が少なく、特に忙しいときは職員の動きに合わせて頂く対応になっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えを行う際には、本人と相談しながら選ぶこともあるが、選べない利用者が増えてきており全員に対応できていない。また数名は居室に櫛、鏡があり自分でセットしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや食器拭きなど職員と一緒に行う対応をしているが、年々出来る利用者が少なくなっており全体的に不十分である。	法人が作った献立の食事や旬の食べ物、行事食をその都度提供している。飲み物は利用者が好むコーヒーや紅茶を用意している。食器拭きやテーブル拭きはできる人がやる、その支援をしている。	利用者がどのような食事をしているか。数日分の食事の写真や献立を渡す等、コロナ禍であるからこそ、家族が知りたいと思っていることに対応してみてはいかがか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養に関しては管理栄養士が作成した献立となっている。食事量や水分摂取量に関してはチェックを行い、摂取量、方法の検討を行いながら個々に合わせている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に対して口腔ケアを行っている。自力で口腔ケアが困難な方には、自席にてガーグルベース・口腔スポンジ等を使用して対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い排泄の間隔等を職員で把握し、トイレ案内のタイミングをみて対応している。	おむつを使用しているも、排便の際は二人介助でトイレ誘導する等、利用者の状態を見ながら、自立支援に取り組んでいる。利用者を理解し、誘導が円滑にできるような声かけを心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により、排泄間隔を確認し、看護師に相談し、マッサージ、下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日によって入浴間隔を決めているが、本人の希望があればその都度入浴を実施している。	1週間に2回入浴日を決めているが、毎日声かけをし連日入浴したり、シャワー浴で予定外に入ることもあり、利用者の希望に沿って対応している。入浴が困難な利用者もいるが個浴で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体力や生活のリズムの合わせて食後に休める時間を作れるように支援を行っている。また夜はテレビを見てから寝る等、本人の意向に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時に服薬の変更があった際には、必ず申し送りノートに記載し、必ず職員に伝え、薬の一覧表を提示している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔からやっていた縫製仕事をやってもらうことや散歩に出かけられるように支援しているが、出来る利用者が少なくなっており、十分に支援でない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者が買いたいものがあると意向があった際には支援していたが、コロナ禍により、対応していない。	日常的な外出は難しいが、利用者の希望に沿って敷地内を散歩したり、草むしりを行っている。9月から食品移動販売車が来るので、外に出る機会となるよう、買い物に行く利用者の支援を考えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名は、財布を持ち少額だが管理をしているが、実際に使用する支援は出来ていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が電話を掛けたい意向があれば使用できるように設置しており援助を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく季節を感じる飾りつけを行い、利用者が季節を感じられるようにしている。またできるだけシンプルに飾り付け混乱しないようにしている。	コロナ感染症対策として清浄機を設置したり、定期的に窓を開け換気や消毒を心がけている。カレンダー、時計の他、季節の花を飾り大人らしい空間作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	離れた場所に椅子を用意して個々に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、本人の使い慣れた物を持参していただくように説明を行っているが、自分の部屋として居室が作られているのは数名しかいない。	ベッド、筆筒の他使い慣れた寝具やテレビを持込み、窓側のカウンターには花を飾る等、居心地の良い空間になるような居室作りを支援している。家族の協力で季節ごとに衣替えをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには「トイレ」「便所」と張り紙をするなどして自分の力で行けるようにしている。		